



会報 JAMT

JAPANESE ASSOCIATION OF MEDICAL TECHNOLOGISTS

発行所
 財団法人日本臨床衛生検査技師会
 発行責任者 小崎繁昭
 編集責任者 蒲池正次、小郷正剛、下田勝二、
 山城元俊、及川雅寛、谷口薫、
 高田敦也
 〒143-0016 東京都大田区大森北4丁目10番7号
 TEL (03) 3768-4722 FAX (03) 3768-6722
 ホームページ <http://www.jamt.or.jp>

第58回日本医学検査学会 終了!

第 58 回医学検査学会が、平成 21 年 7 月 30 日(木)～8 月 1 日(土)を会期に、開港 150 年に沸く横浜の“パシフィコ横浜”を会場に開催された。日臨技と神奈川県臨床衛生検査技師会との共催公益事業として“ケンサ EXPO'09”も同時開催され反響を呼んだ。学会参加者は、3,600 名を数え、試薬・機器展示会も 2 日間で延 36,024 名、“ケンサ EXPO '09”は実に 53,571 名の入場を見た。

学会長式辞

第 58 回日本医学検査学会長 米坂知昭



第 58 回日本医学検査学会の学会長として一言ご挨拶を申し上げます。

本学会は、「健康社会創造に、医学検査はどんな貢献ができるのか？」をテーマに掲げ、私たち臨床検査技師が自らを問う学会と位置付けました。

医療技術の進歩は目覚しく、自己研鑽は勿論のこと、チーム医療における臨床検査技師としての役割も重要となり、その責任も重くなってきました。そこで、今回の特別講演は「遺伝子検査の標準化と新たな展開」と題し、東海大学医学部基盤診療学系臨床検査学教授の宮地勇人先生に先端医療のトピックスについてご講演いただき、神奈川県厚生連相模原協同病院院長の高野靖悟先生には「高度医療への臨床検査技師チームの参画」について、市中病院での生体肝移植の経験を実例に、一般病院における医療レベルの高度化が現実化している中、チーム医療における医療技術者の役割をお話いただきます。

また、健康社会へ向けた臨床検査技師の一般市民・国民への直接的な働きかけが重要との視点から、岩室紳也先生（社団法人 地域医療振興協会ヘルスプロモーション研究センター長）には「若者たちの性感染症の現状と予防に求められる視点」についてご講演いただきます。これまでも多くの都道府県技師会が実施してきた性感染症撲滅に関する事業展開に役立つものと思っております。

更に、新たな試みとして、神奈川県臨床衛生検査技師会が主催し、日本臨床衛生検査技師会および関東甲信地区臨床衛生検査技師会の共催を得て実施する「ケンサ EXPO'09」は、これからの社会貢献の一例として十分な効果があると考えております。実際、メディア等の取材、報道により本日の来場者が対応に苦慮するほどとなったことは予想以上の展開となりました。

開港 150 周年を迎える横浜の地で、第 3 回 AAMLS 学会と本学会が同時期に開催できましたことに感謝申し上げますとともに、今後の臨床検査の発展に向け「ケンサ元年」と銘打ち、新たな一歩を踏み出す先掛けとなり両学会が盛会裏に終わりますようお願いいたします。

最後になりますが本学会の開催準備から運営にかけ、齋藤幸弘実行委員長はじめ、神奈川県臨床衛生検査技師会の皆様のご尽力に心より感謝申し上げます。

主催者挨拶

社団法人日本臨床衛生検査技師会長 小崎繁昭



本日、此処に社団法人神奈川県臨床衛生検査技師会のご尽力により、第58回日本医学検査学会を横浜開港150年の記念すべき年に開催するにあたり、日本臨床衛生検査技師会を代表し一言ご挨拶申し上げます。

まず以って、ご多用中にもかかわらず、式典にご臨席賜りました大韓臨床病理士協会安会長をはじめ関係各位に厚くお礼申し上げます。

本学会のメインテーマであります「健康社会創造に、医学検査はどんな貢献ができるか」は、新しい健康社会、長寿高齢社会へ臨床検査がどのように係り、情報発信するとともに困難な時代を乗り越え切り拓く斬新な発想を期待して掲げた時宜を得たテーマであります。

今学会には526の研究演題をエントリーいただきました。研究発表者の日常検査業務多忙のかたわら研鑽を積み重ねた研究成果であり、高く評価し敬意を表する次第です。

招待講演は、数々のヒット曲を世に送り出し阿木耀子先生の「自分らしく生きる」と題したご講演で、多くの会員に共感を与えたものと存じます。また、特別講演、ランチョンセミナーは、先進・高度医療における臨床検査の最前線から新技術の紹介等将来我々が進むべき方向性を示していただいたものと確信しています。

当会は、昨年大韓臨床病理士協会とともに札幌市において日韓協定締結30周年記念式典を挙行いたしました。日韓交流の更なる拡大を目指し、今後も情報交換を密に技術交流に勤める所存であります。

今回、学会と併設し開催している分析機器、検査試薬等の展示には厳しい医療環境にもかかわらず臨床検査関連業界91社のご支援、ご協力をいただき、新製品の数々を紹介していただいています。会員の皆様は、演題発表、聴講の間に是非とも展示場に足を運んでいただき、新機器や試薬等の情報を入手していただきたく願っております。